身近な災害リスクをご存じですか

（施設園芸向け）



農業経営には、**自然災害**等の様々なリスクがあります。







農業者の皆様には、様々なリスクに対し、**自ら備える**という意識を高めていただき、**保険を利用する**ことが**重要**です。

園芸施設共済、収入保険の詳細はコチラ

農業保険　検索

農林水産省

（２０２６．１０）

自然災害は日本各地で発生しています！

台風

- 台風は、平均的に毎年約３個（1996年～2025年）が上陸しています。
- 近年、台風が強い勢力を保ったまま上陸し、観測史上１位となる最大瞬間風速や降水量などが各地で記録されています。

＜台風被害の様子＞



＜台風の上陸数＞

年	上陸数	年	上陸数	年	上陸数
1996	2	2006	2	2016	6
1997	4	2007	3	2017	4
1998	4	2008	0	2018	5
1999	2	2009	1	2019	5
2000	0	2010	2	2020	0
2001	2	2011	3	2021	3
2002	3	2012	2	2022	3
2003	2	2013	2	2023	1
2004	10	2014	4	2024	2
2005	3	2015	4	2025	3

令和２年 台風10号

33地点で最大瞬間風速の記録更新（長崎県野母崎で59.4mなど）

令和４年 台風15号

６地点で24時間降水量の記録更新（静岡県静岡市鍵穴で405.0mmなど）

令和５年 台風13号

10地点で１時間降水量の記録更新（東京都三宅村三宅坪田で123.5mmなど）

令和６年 台風10号

九州の複数の観測地点で８月の最大風速の観測史上１位を更新

出典：気象庁データ及び国土交通省公表資料より

竜巻

- 竜巻は、平均的に毎年約19件（2007年～2025年、海上竜巻を除く）の発生が確認されています。
- また、前線や台風の影響および大気の状態が不安定になりやすいことなどにより、７月から11月にかけて多くなります。

＜近年の竜巻の発生確認数＞

年	件数	年	件数
2014	21	2020	11
2015	26	2021	15
2016	18	2022	15
2017	10	2023	13
2018	20	2024	15
2019	10	2025	16

出典：気象庁データより

特別警報の発表件数

「特別警報」とは、警報の発表基準をはるかに超える数十年に一度の大災害が起こると予想される場合に発表し、最大限の警戒を呼びかけるものです。

- 平成25年８月30日から運用が開始され、約13年で2,044件（１年あたり平均約157件）の特別警報が発表されています。

出典：気象庁データより

⚠大雪

➢ 近年、平年の２倍を超える積雪となる大雪や短時間に降り積もる大雪が発生しています。

平成26年２月大雪

24地点で平年の200％を超える積雪
（山梨県甲府市で814％など）

令和２年12月大雪

全国11地点で200cmを超える降雪
（群馬県藤原で291cmなど）

令和３年１月大雪

全国６地点で150cmを超える降雪
（新潟県高田で24時間降雪量103cmなど）

出典：気象庁データ

＜雪による被害の様子＞



⚠地震

➢ 令和６年１月に石川県能登半島を震源とする地震が発生し震度７を観測。また、８月に日向灘を震源とする地震が発生し震度６弱が観測されています。

＜近年の震度５以上の発生回数＞

年	発生回数	年	発生回数
2016	33	2021	10
2017	8	2022	15
2018	11	2023	8
2019	9	2024	30
2020	7	2025	15

出典：気象庁データより

⚠大雨

➢ 近年、大雨や短時間豪雨の発生回数が増加しています。

※統計が始まってから最初の10年間（1976年～1985年）の平均と最近10年間（2016年～2025年）の平均とを比較

大 雨
（日降水量200mm以上）

全国1,300地点において１日当たりの降水量が200mm以上となる年間日数は、統計開始後最初の10年間では約160日でしたが、最近10年間の平均では約240日となるなど、約1.5倍に増加しています。

（出典）［全国アメダス］日降水量200mm以上の年間日数より

短時間豪雨
（１時間降水量80mm以上）

全国1,300地点において１時間当たりの降水量が80mm以上となる年間発生回数は、統計開始後最初の10年間では約14回でしたが、最近10年間の平均では約25回となるなど、約1.8倍に増加しています。

（出典）［全国アメダス］１時間降水量80mm以上の年間発生回数より

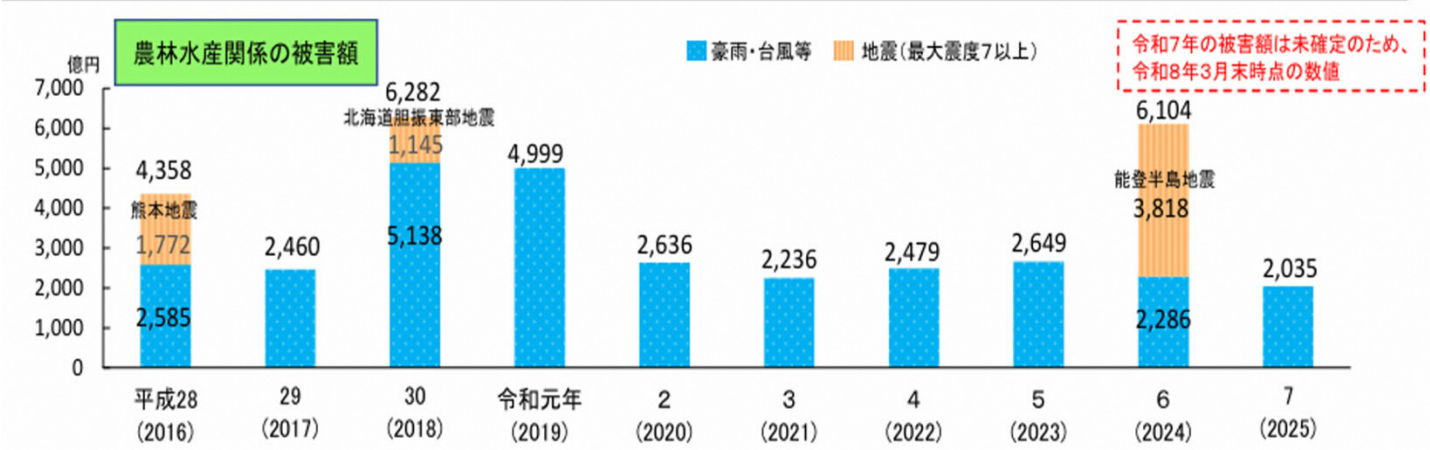
その他の自然災害（落雷や降雹など）

➢ 落雷や降雹は発生しやすい時期や地域に偏りがありますが、園芸施設共済に加入している農業用ハウスでは、令和６年に落雷による被害が832棟、降雹による被害が892棟発生しています。

出典：農林水産省調べ

農林水産業への被害は毎年発生しています！

➢ 近年、豪雨や台風等の大規模な自然災害が頻発しており、令和元年東日本台風等、令和６年能登半島地震・豪雨、などにより、農林水産業に甚大な被害をもたらしている。令和７年には、令和６年から７年までの冬期の大雪、令和７年８月から９月にかけての大雨などによる被害が発生した。



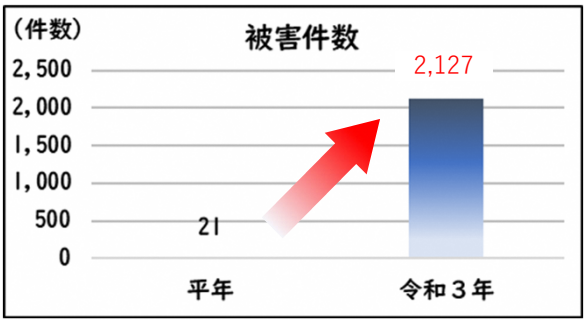
農業用ハウスに大規模な被害が発生しています！

秋田県　令和３年（2021年）１月に大雪が発生

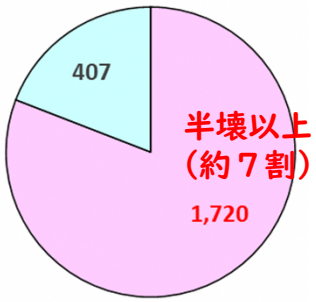
➢ 被害件数は平年の約103倍

➢ 被害件数の約８割が半壊以上の被害（約７割は全壊の被害）





＜2,127件の被害件数のうち半壊以上の件数＞

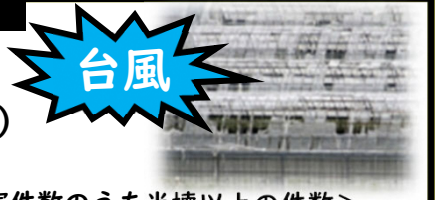


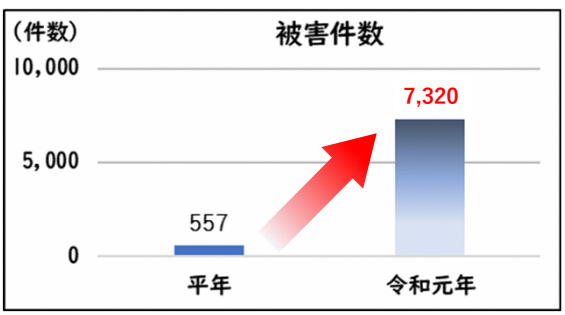
※秋田県における園芸施設共済に加入しているパイプハウスの１月事故による比較。
平年は過去10年間（平成27年～令和７年）の令和３年を除いた平均。

千葉県　令和元年（2019）年に台風15号・19号が襲来

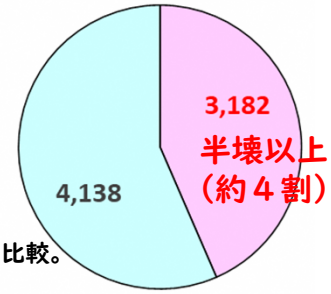
➢ 被害件数は平年の約13倍

➢ 被害件数の約４割が半壊以上の被害（約１割は全壊の被害）





＜7,320件の被害件数のうち半壊以上の件数＞



※千葉県における園芸施設共済に加入しているパイプハウスの９月・10月事故による比較。
平年は過去10年間（平成26年～令和６年）の令和元年を除いた平均。